

〔扶桑名處名物集〕尾張半田酢屋

下男つかふ支配は仕入時くちをすくする丸勘の店

信長岡  
明福

〔毛吹草〕三駿河 善徳寺。酢。

〔紀伊續風土記〕物産十下酢

那賀郡粉河村にて製する者は、他處の製より氣味大に勝りて、諸國へも多く出す、

〔七十一番歌合〕七十一番 左

酢造

さもこそは名におふ秋の夜半ならめあまり澄たる月の影哉

左あまりといひて、すとは聞えたるを、かさねてすとよめるやいかゞ、

いつまでか待宵ことの口つけにあすやゝといふをたのまむ

左歌は、酢つくる人は、あすやゝといひて、祝ごとにするといへるをよめるにや、るんにきこ

ゆ、

〔天保武鑑〕御酢屋

かんだ  
三川丁 鳥居次右衛門

〔元治〕京羽津根三酢造所 衣棚丸太町上 壺屋八右衛門

堀川御池下 菊屋三右衛門

〔東大寺正倉院文書〕十九伊豆國天平十一年正税帳

毎年正月十四日讀金光明經四卷、又金光明最勝王經十卷、合壹拾肆卷、供養料稻肆拾玖束、略中

酢壹升壹合伍夕貳撮價稻貳束參把、

依太政官天平十一年三月廿四日符講說最勝王經調度價稻壹仟肆佰玖拾伍束、略中

供養料稻伍拾伍束、略中

酢壹升貳合玖勺陸撮價稻貳束伍把玖分

〔天保十三年物價書上〕酒酢醬油直段書上